

# 県立総合技術高校に、講師を派遣！ 第2弾

～高校生に若い経営者の思いや考え方を伝える！～

総合技術高校からの依頼で、3年前から行われている講師派遣を、7月9日に続き、9月3日（水）の午後、当青年会議所から2名のメンバーが広島県立総合技術高校の現代ビジネス科の生徒（約40名）に講義を行いました。荻路新吾君は自分の職業について・食べ物の大切さのことを、住田誠君は人生の大切さ・経済のしくみとその意味を熱く語りました。

荻路君の授業

パン屋を経営している荻路君（株オギロパン・取締役）の授業は、まず、5000年前から現在までのパンの歴史、90年の歴史を持つ自分の会社と創業当時からの日本のパン屋の状況、荻路君の職人としての経歴とそこで学んだパン作りの哲学、自らの経営理念のもととなった祖父への思い、地元の小麦を使った食パンを作り上げた苦労談や、食べ物の大切さを訴えかけました。

「必要は発明の母。人類はおいしさを必要とし、パンを改良してきた」

「三原の人においしいパンを食べてもらって喜んでもらいたい」

「地元の小麦を使ってパンを作ることは、とても大切なことである」

「食べ物を食べるということは、生きることである」



- 「若いうちから、いろいろなことを勉強することは、無駄にはならない」
- 「生きてゆくこと、そのものが経済活動である」
- 「命をかけて信念を貫くことも大切である」
- 「少しでも多くのことを学び、社会に役に立つ人間になることが重要である」

## 授業風景の感想

生徒たちは、講師の一言一言をしっかりと受け止めています。講師の発言をメモする生徒、講師の話をじっと真剣な表情で聞いている生徒。生徒たちは、講師から何かを学ぼうとする姿勢がひしひしと感じられる授業でした。



住田君の授業

土木業・介護業を経営している住田君(株)スミダ代表取締役の授業は、自分の過去を振り返りながら勉強することの大切さ、いろいろな知識や経験を積むことで正しい判断ができるようになるということ、世の中の役に立つ仕事をする

講師となった当会議所の2名も、一生懸命に授業を行いました。荻路君は難しくなりがちな専門的な話をなるべくわかりやすく伝える努力を、住田君は生徒たちとコミュニケーションをとりながらも、しっかりと重要なポイントを伝える授業を行なっていました。

このように、普段はあまり接点のない高校生と当会議所メンバーが、授業という機会を使い、面と向き合い、若い経営者が伝えたい事を、まだ社会に出ていない生徒たちに伝えるということは、とても貴重な時間であると思います。



この授業を通じて、  
未来の青年経済人を…

来年度も、このような講義を県立総合技術高校で行う予定があるということです。その時に当会議所メンバーはどのようなことを伝えるのでしょうか。そして、それを生徒たちがどのように受け止め、授業を感じた事を将来に役立てることができるのでしょうか。この取り組みを続けることによって、授業を受けた生徒たちも、講義を行う講師たちも、互いに学ぶ機会を作り続けることができるのだと感じています。

そして、講義を受けた生徒たちが、将来、青年経済人となり、地元を元気にする力になってくれるよう、心から願っております。

また、同じような取り組みを行いたい学校がございましたら、当会議所にご連絡いただければ幸いです。